



はじめのいっぽ

令和5年度
7月号

令和5年6月30日
認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川 永里子

例年になく、ツバメの巣4棟全てひな誕生という活気あふれる春でした。

すでに5棟目の巣作り中…

夏本番がやってきました。

「安田式プール」が大活躍の季節です。

安全面に気を付けながら、夏の遊びを十分に楽しみたいと思います。

屋上の畑には、トマト・ナス・キュウリ・オクラ・ピーマンが大豊作です。

厨房でお料理してもらってご馳走になります。

「トマトいっぱい、赤いねえ～」と、子ども達の可愛い声が響いています。



～ アドラー より ～

失敗した場合にも勇気づけよう

1.失敗は不適切な行動ではありません

よい意図をもって、あるいはすくなくとも悪い意図をもたないで行動したのに、たまたま結果がうまくいかなかったことを〈失敗〉といいます。〈不適切な行動〉は、多かれ少なかれ、親を困らせることを目的にしていますので、そういう点で〈失敗〉とは違ってきます。失敗の結果、親は困るかもしれませんが、子どもは「親を困らせてやろう」という目的で失敗したわけではありません。親は迷惑をかけられたかもしれませんが、そのために感情的になってしまえば、子どもを勇気づける力を失ってしまいます。

2.子どもは失敗を通じて成長する

子どもが失敗したとき、その失敗をとがめたり、批判したり、罰したりしたらどうなるのでしょうか。子どもは、「私には能力がないんだ」と感じて、自分の課題に自分の力でとりくむ勇気をくじかれてしまい、臆病になってしまうかもしれません。あるいは、「親は私の仲間じゃない」と、親に対して不信感を持ってしまうかもしれません。

失敗は成長するためのチャンスなのです。子どもは失敗から学びます。子どもが失敗したときこそ、じゅうぶんに勇気づけてあげましょう。そのためには、まず、子どもの話をじっくりと聴いてみることです。そうして、失敗したために、子どもががっかりしていたり、動揺していたり、自分に腹を立てていたりすることを理解してあげましょう。親は子どもの味方、子どもの仲間なんですから。

3.子どものよい意図や努力をみつけだそう

子どもはよい意図で行動したのに、結果がうまくいかなかったのです。もし子どもを勇気づけようとするならば、結果に注目せずに、よい意図や、努力や、チャレンジする姿勢などに焦点をあてましょう。そうすれば勇気づけは難しくありません。

さらに、失敗によっておこった損害などを、どのようにして回復すればいいか、今後同じ失敗をくり返さないためにはどうすればいいかを、冷静に話し合みましょう。また、迷惑をかけた人がおれば、あやまるように提案してみるのもいいでしょう。ただし、これは、親子関係が良ければの話で、子どもが親を仲間だと思っていないときに、「どうして後始末をするのよ」とか、「あやまりなさい」と言うと、子どもは怒るかもしれません。